

みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長 三宅良憲

宮城梅花 平成 23. 7. 1 発行 第46号

発行所 曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字檜町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803



3.11 東日本大震災の爪あと

法具無残

津波に流された大黒様と法具

災厄を糧に



宗務所梅花講長
三宅良憲

この度の東日本大震災で被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興に向けて邁進まいしん下さいませ。すよう切にお祈り申し上げます。梅花講員の中で生命を落とされ、物故者となられた方々のご冥福を心より申し上げます。

三月十一日、東日本大震災が起きた。マグニチュード9・0、とてつもない震度。私は東京からの帰り東北新幹線の中、ガツンと大きく揺れ、新白河から三キロメートル過ぎたトンネルの中

で列車は停止した。それから二日後漸ようやく自坊たどに辿り着いた。

今回の地震は特に津波による災害が大きかった。大津波は一瞬にして多くの生命と家屋や色々な物を呑み込んだ。そんな中、多くの檀信徒の方々が被災された。寺院もその梓の中にある。住職で遷化せんかなされた方、行方知れずの方、寺族で逝去しよきよなされた方、行方知れずの方、本堂・庫裡くり・諸堂等の伽藍がらんの消失や建物への浸水等々枚挙まいとまに暇がない。その損害は大変なものがある。正に途方に暮れる状況の中にある。復興までの道のりは尋常ではない。檀信徒の復興とて同様である。

不条理にもかつ理不尽にも一瞬の中に、生命を奪われる運命という名の電

車に乗っている苦しみ、普段私たちが気付かないでいます。まるで無常という風もてあそに弄もてあそばれる木の葉のように。

嘗かつて、良寛和尚は新潟三条大地震の折、山田杜臯とこうに宛てた見舞状で、「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。是はこれ災難をのがるる妙法にて候。」と言、その裏に良寛和尚の運命の不条理に対する悲しみの涙を見る思いがします。

道元禪師は、「辛く、苦しい思いをする経験があったとしても、その経験がまた仏を求める清い心をさらに強くしてくれます。投げやりになる必要はまったくありません。」(上西聡著「仏教の救われるひと言」所収)と教えていらっしやいます。

「娑婆」

梅花流特派師範

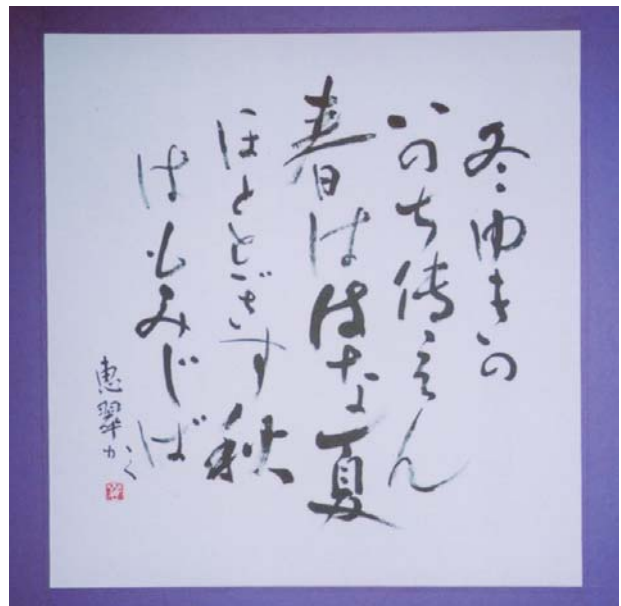
石巻市 耕徳院 長谷誠悦

「シャバ」とは、サンスクリット語（インドの古い言葉）のサハの音写で、仏教が中国に伝えられ漢字に訳されたときに「忍土」、「忍界」、「堪忍」などと訳されました。映画などで牢獄に入れられた者が「娑婆の空気が吸いたい」等という台詞を聞くことがあります。本来は「私たちが住んでいる現世は苦勞の多いところで、堪え忍んで行かなければ生きて行けない世界である。」ということ。でも食べたいものは何不自由なく食べられるし、行きたいところには何処へでも行けるような便利な時代になると、「世の中をそんなに悲觀的に捉えて生きなくて

もいいじゃないか。」とお釈迦様の教えに耳を傾けない風潮がありました。

私の尊敬するある方丈様は、「五分後の私はどうなるか分からない。明日の皆さんはどうなるか分からない。」と口癖のように話されておりました。中には揶揄するように笑って聞く人もいました。それが此度の大地震と大津波によって現実になってしまったのです。「生ある者はやがて死に逝き、形ある物は常に変わり行く。」これは無常觀を教えています。逆にながれ生まれ出ることも、何かを作り出し再生出来ることも無常であるからです。

『修証義』の教えに「願生し娑婆国土し来たれり」(仏道修行のため、誓願によってこの土に生まれ生きてきた。)とあります。今こそ菩提心を奮い起して「忍土」を生き抜いていくことが、私たちに求められている事だと実感します。



「道環」

冬ゆきのいのち伝えん春ははな

夏ほととぎす秋はもみじば

気仙沼市 補陀寺講

小山千エ子

(惠翠)

教区梅花講紹介 第二十一教区梅花講

泉区 大満寺寺族

佐藤 信子

当教区は、仙台市に合併する以前の泉区と宮城町を区域とした教区です。

活動している梅花講は、宗門寺院二十一ヶ寺中、九ヶ寺で、総講員数は、約一七〇名です。講設置が一番早かったのは、満興寺講です。現在も御活躍中の、時仁子詠範さんは、八十八歳を迎え、益々お元気で、百歳を目ざしておられる由、私共寺族にとりまして、頼もしい存在になっておられます。

各寺院では、大般若会、お回向会、施食会等があり、それぞれ講員の方々が法要に参列されています。教区の講習会は、毎年三・四回開催されます。



会場は順番で受け、県大会、教区大会の詠題司・詠頭司も担当します。事務局は、永年熊ヶ根にある興禅寺の渡辺隆悦住職さんに担当して頂いていますが、現在は正法寺の大窪紘道副住職さんにお世話頂き、感謝しております。

平成十四年、遅ればせながら、教区大会を開催致しました。一年毎に寺院の本堂を会場に行われます。当初は、舞台と客席が近いという事もあり「緊張する」と敬遠する傾向もみられましたが、回を重ねる毎に熱を帯びてきたように思います。最近では失敗を笑い転じ、心地よい緊張感の中にも、楽しい雰囲気をも出し出せるようになりました。教区大会も、お唱えの技を競うのではなく、楽しく、和やかに、その講の持味を生かしてお唱えできたら何よりだと思えます。それが、聴いてくれる方々の感動につながるのではないのでしょうか。教区大会を開催して、来年で十年を迎えます。節目の年でもあるので、「温泉で教区大会を。」との声もあります。どうなりますか。

これから「お誓い」にあるように、正しい信仰に生き、仲よくくらしをし、明るい世の中をつくる、詠讚歌の仲間でありたいと思えます。

◎ 県内梅花講 被災状況について

六月十日現在、宮城県宗務所内では、亡くなられた、あるいは行方のわからない講長様・寺族様・講員様が、数多くいらっしゃいます。

また、一部の講では、他自治体への一時避難等により、未だ講員様の所在を把握できない状況です。

さらに、沿岸部・内陸部を問わず、伽藍が倒壊・破損し、活動を再開できない梅花講が多数ございます。

一方で、活動を始められたとの情報や、再開を望むとの声も届いております。しかしながら、法具・教典などを失くされ、お唱えしたくてもそれが叶わないとの声も寄せられております。

このような中、大変有難いことに、特派師範・専門委員の先生方のご厚意により、被災地の皆様へ三〇〇冊の梅花教典をご寄贈頂きました。既に一部地域に限り、頂戴したすべての教典をお届け済みですが、左記のとおりこれを大きく上回る冊数が必要です。

さて、宗務所にお知らせ頂いております状況は、次のとおりです。

- 死亡・不明の方 四九名
- 避難された方 三二五名
- 必要な法具・教典 四九七組
- 活動休止中 五一講

(二二八講中 六〇講 未回答)

その他、梅花服や、バッヂ・補命(補任)状再発行のご要望がございます。

また、現在宗務所では、これらの状況に対する要望を、次のとおり宗務所へお願いしております。

- 梅花教典の追加 二〇〇冊
- 法具一式 五〇〇組
- バッヂ・補命(補任)状の再交付申請手数料の免除

宗務所の財源の問題もあり、全ての要望が満たされるかどうか判りませんが、なるべく実現して頂きたい働き掛けて参ります。また、宗務所としても努力して行く所存です。

なお、各方面から、法具等(使用されたもの)をご寄贈頂いておりますので、ご希望がありましたなら、宗務所までご連絡下さい。

宗務所講習会

本年度は希望される教区のみで開催いたします。

担当師範は、開催申請がありました後、お知らせいたします。

・受講料は、お一人千円です。

宗務所検定会

本年は一回のみ開催いたします。充分に研鑽して受検して下さい。

十月二十六日(水) 仙台市 林香院様 りんこういん

- ・いずれも午前九時受付です。
- ・検定料は一律 四千円です。

※既にお送りしました要項をよくご覧になって、お申込下さい。

合格おめでとう
ございます

平成二十二年度は、次の方々が宗務所検定で合格されました。

益々のご活躍をお祈りいたします。

三級師範

登米市 大慈寺 高橋信弘

正流詠範

石巻市 法山寺 北村郁子

一級詠範

七ヶ浜町 鳳寿寺 鈴木悌子

女川町 照源寺 三宅仁子

気仙沼市 補陀寺 千葉晶子

亘理町 當行寺 岡崎るみ子

二級詠範

石巻市 洞仙寺 八巻満喜子

〃 崇徳寺 辻るみ子

登米市 香林寺 武山克枝

栗原市 黄金寺 最上久美子

一級教範

仙台市 玄光庵 熊谷豊子
丸森町 眞龍院 小室ミサ

〃 〃 門間キヨ
〃 〃 矢吹久美子

編集後記

この度は、どのような言葉を以ってしても、慰みの意を表せないもどかしさを感じます。皆様も、悲しみ・怒り・悔しさ・不平等感、あるいは感謝など、様々な感情が交錯したことでしょう。また、自分は何をすべきかを、各々の立場で考えられたことと思います。

震災直後、御詠歌が無力に感じるの声を聞きました。その時はその方の正直な気持ちだったのでしよう。でも、今はどのような心持なのか、気になります。

今はお唱えする気持ちになれない方、お唱えしたくてもできない方へ。きっと、全国のお仲間が皆様のことを想っておられる筈です。いつでも、皆様を待って下さっている筈です。なぜなら、同行同修の道を歩む皆様ですから。

泣いてもいい。笑ってもいい。どんな形でも皆様がお唱えできることを、御詠歌が少しでも心の支えになることを、願っております。